

低学年分科会 (対象：1年1組28名、1年2組28名)

1 分科会提案

(1) よい学習像

低学年分科会第1学年の目指すよい学習とは、安心して自分の意見が言える学習である。

(2) 安心して自分の意見が言える学習にするための手だて

①いろいろな形態の対話設定

1年間を通して、ペアで、グループで、学級全体で、段階を踏みながら様々に対話を経験させていく。対話の流れを提示したり、対話のデモンストレーションを適宜行ったりして、どのように対話したらよいかつかめるようにしたい。

本単元でも、同じ学習の流れで繰り返し対話を取り入れることで、少しずつ自分たちで考えて対話を進められるようにしていく。

②具体物の活用

バスや乗用車・トラック・クレーン車の模型を作成し、教材文のイメージをもちやすくする。本文の叙述が、具体物にどう対応するのか、確認しながら学習できる。

2 単元名「じどう車はかせになって、じどう車ずかんをつくろう～もっとつたえたいじどう車はどれだ?!～」

教材名「じどう車くらべ」(光村図書 国語1年 下)

3 教材観

「じどう車くらべ」は、どんな仕事をするのか、そのためにどんな作りになっているのかという具合に、問いが2つあるため、2段落に分けて書かれている明確な構成である。仕事と作りの関係を捉えることが重要である。特に、「そのために」という言葉でつながれている作りについては、仕事の内容に合う作りが選択されていることに気付かせていくようにする。教材文では、「～しごとを しています。」や「その ために」「～つくって あります。」といった言葉が用いられている。バスやトラック、クレーン車の仕事や作りを表す言葉はどのようなものなのかを考えさせる必要がある。具体物や挿絵を手掛かりに、仕事と作りについて対話したり、図鑑シートに書いて整理したりすることで、2つの関係性をいっそうはっきりと理解させることができると考える。他の自動車の例も出しながら、説明的な文章を自分で書く活動につなげていく。

4 単元の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
目標	・事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア	・事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えることができる。 C(1)ア ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 C(1)ウ	・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・仕事と作りとの関係について理解している。(2)ア	・「読むこと」において、挿絵や具体物などを手掛かりにししながら、内容の大体を捉えている。 C(1)ア ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、図鑑シートを書いている。 C(1)ウ	・学習課題に沿って、積極的に分かったことや考えたことを伝えようとしている。

5 児童の実態

(1) 1組

入学当初は、挙手して発言できる児童は3割程であった。そこで、近くの友達に自分の意見を発表する機会を、国語に限らず他教科でも多くもたせた。また、自由にペアを作り、対話する機会を多く設けてきた。目の前の相手に共感してもらえたり、多くの意見を聞いたりすることで、安心し、自信をもつ様子が見られた。全体発表の場でも挙手して発言できる児童が7割程度に増えてきている。

(2) 2組

ペアでの話し合いは意欲的に行うことができている児童が多い。入学当初より席の近くの友達や自由なペアで話し合い、考えを伝え合う活動を設けてきた。初めは、なかなか友達と対話することができなかった児童もだんだんと慣れ、友達と交流できるようになってきている。友達と話すときは、「なるほど」「それいいね」など肯定的な言葉や、友達が話した後には拍手をする姿も見られ、活動を通して話すことに対し自信を深めている児童も見られる。

6 指導計画

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
1次	1	①知っている自動車について出し合う。 ②範読を聞き、自動車の仕事と作りが説明されていることを確かめる。最終的に自分の好きな自動車についてまとめることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する本を用意しておき、児童が手に取れるようにする。 ・問いが2つあることを確かめ、3つの事例を挙げて答えが書かれていることを押さえる。 ◆これまでの体験や知っていることを思い出し、学習課題に沿って、分かったことや考えたことを伝えようとしている。【態】☆発言
2次	2 ・ 3 ・ 4 (本時)	④それぞれの自動車の仕事と作りを読み取り、図鑑シートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの事例が同じ構成になっていることを捉えられるように、板書の仕方を工夫する。 ・なぜその作りになっているのか、仕事と関連付けて考えさせる。「そのために」の役割と説明の順序に着目させる。 ・挿絵掲示だけでなく、具体物も用意する。 ◆仕事と作りとの関係について理解している。【知】☆発言・記述 ◆「読むこと」において挿絵や具体物などを手掛かりにしながら、内容の大体を捉えている。【思】☆発言 ◆仕事に関連付けた作りを意識し、文章の中の重要な語や文を考えて選び出して図鑑シートを書いている。【思】☆発言・記述
3次	5 (本時)	⑤「はしご車」の仕事と作りを、図鑑シートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵掲示だけでなく、具体物も用意する。 ・前時と同じ図鑑シートを用意することで抵抗なく書けるようにする。 ◆「はしご車」について対話したり模型で確認したりして、仕事や作りを伝えようとしている。【態】☆発言・記述

7-1 本時の学習(1年1組:4/5時間目)

(1) 目標

クレーン車の仕事に関連付けた作りを意識し、文章の中の重要な語や文を選び出して図鑑シートを書く。

(2) 展開


	○学習活動 C: 想定される児童の反応	・指導上の留意点◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。	・児童が見通しをもって学習できるように、これまでの学習や本時の活動、ゴールイメージを尋ね、児童が答えられるようにする。 ・前時の振り返りでよかったものを紹介する。
	「クレーン車」はかせになって ずかんシートをかこう。	
展開 (35分)	<p>○「クレーン車」を音読する。</p> <p>○仕事と作りの文章構成を確認する。 C:「仕事です。」と書いているから、仕事は「重いものを吊り上げる」です。 C:作りは「丈夫な腕が、伸びたり動いたりするように、作ってあります。」だと思って、線を引きました。 C:「車体が傾かないように、しっかりした足が、付いています。」も、作りだと思います。</p> <p>○ペアで対話し、「クレーン車」の特徴を捉える。 (ペアを変えて、数回取り組む。) C:腕は丈夫じゃないと、折れちゃうね。 C:足がしっかりしてないと倒れちゃう。 C:重いものを吊り上げるためには、丈夫な腕や足が必要だね。 C:足が重いと、傾かないね。</p> <p>○図鑑シートに、仕事と作りを整理する。</p>	<p>・児童一人一人のペースで読むことを保証する。</p> <p>・「バス・乗用車」や「トラック」と同じような文章構成で書かれていることが捉えられるように、文章を拡大掲示する。</p> <p>・文章構成が視覚的に分かりやすくなるように、教科書の仕事部分に赤線、作り部分に青線を引かせる。</p> <p>・「そのために」を黄色線で囲ませ、その役割について考えさせる。</p> <p>・児童の生活経験に基づき、語彙指導を丁寧に行う。</p> <p>・安心して対話ができるように、頷いたり相槌を打ったりすることの大切さを確認する。</p> <p>・本文に書いてあることが理解できるように、クレーン車の模型を実際に触ったり、本文や挿絵に立ち戻ったりするよう声を掛ける。</p> <p>・なぜその作りになっているのか、仕事と関連付けて考えさせる。</p> <p>・支援の必要な児童には、仕事の部分が既に書かれている図鑑シートを渡す。</p> <p>・仕事と作りは文で書くことや、本文を書き抜かずに自分の言葉で文を書き直しても良いことを伝える。</p> <p>◆クレーン車の仕事に関連付けた作りを意識し、文章の中の重要な語や文を選び出して図鑑シートを書いている。【思】☆発言・記述</p>
まとめ (5分)	<p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>・顔マークで全員が振り返りをした後に、振り返りを言語化できるようにするために児童数名に発表させる。</p> <p>・次時への意欲につなげるために、自動車博士に近付いたことを価値付ける。</p>

(3) 具体的な児童の姿と、目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的手だて
クレーン車の仕事に関連付けた作りを意識し、文章の中の重要な語や文を選び出し、自分の言葉で文を書き直して図鑑シートを書いている。	クレーン車の仕事に関連付けた作りを意識し、文章の中の重要な語や文を選び出して図鑑シートを書いている。	児童には、模型を活用させ、大体の内容を捉えられるようにする。 対話が活発ではないときの机間指導中の言葉掛けを想定し、内容の理解を促す。

(4) 板書計画

【ふりかえり】



つくり
しごと

クレーン車は、おもいものを
つり上げる しごとを
して います。
そのために、
じょうぶな うでが、
のびたり うごいたり
するように、つくってあります。
車たいが かたむかないように、
しっかりした あしが、
ついて います。

「クレーン車」はかせになって、
ずかんシートをかこう。

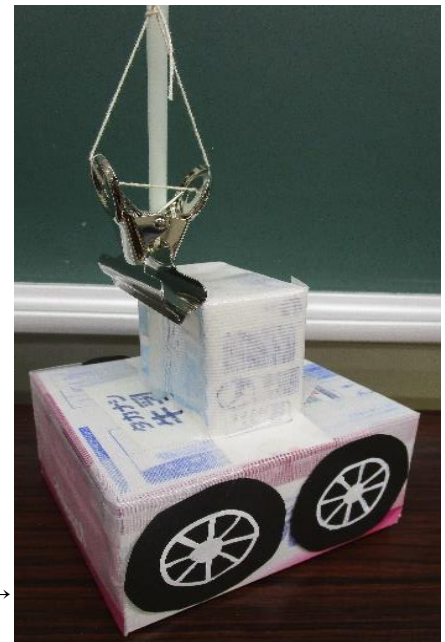
クレーン車の
挿絵

じどう車くらべ

(5) 机間指導

活発な対話となるために、以下のような言葉掛けをしていく。

- ・クレーン車の仕事は、何でしたか？ どう書いてあるかな？
- ・「吊り上げる」とは、どういうことですか。「吊る」とは？「上げる」とは？
- ・「腕」は模型でいうと、どこかな。挿絵でいうとどこかな。重いものを吊り上げたとき、固い腕とやわらかい腕ではどう違うか、比べてみよう。違いはあるかな。
- ・「丈夫な腕」と書いてあるね。なぜ丈夫な腕が必要なのですか。
- ・「伸びたり動いたり」とは、どういうことですか。「伸びる」とは？「動く」とは？
- ・「傾く」とは、どういうことですか。「車体が傾く」とは？
- ・「足」は模型でいうと、どこかな。挿絵でいうとどこかな。
重いものを吊り上げたときに、重い足と軽い足ではどうなるのか、比べてみよう。違いはあるかな。
- ・「しっかりした足」とは？ 模型をもとに、話し合ってみましょう。



【クレーン車の模型】→

7-2 本時の学習(1年2組:5/5時間目)

(1) 目標

「はしご車」について対話したり模型で確認したりして、仕事や作りを伝える。

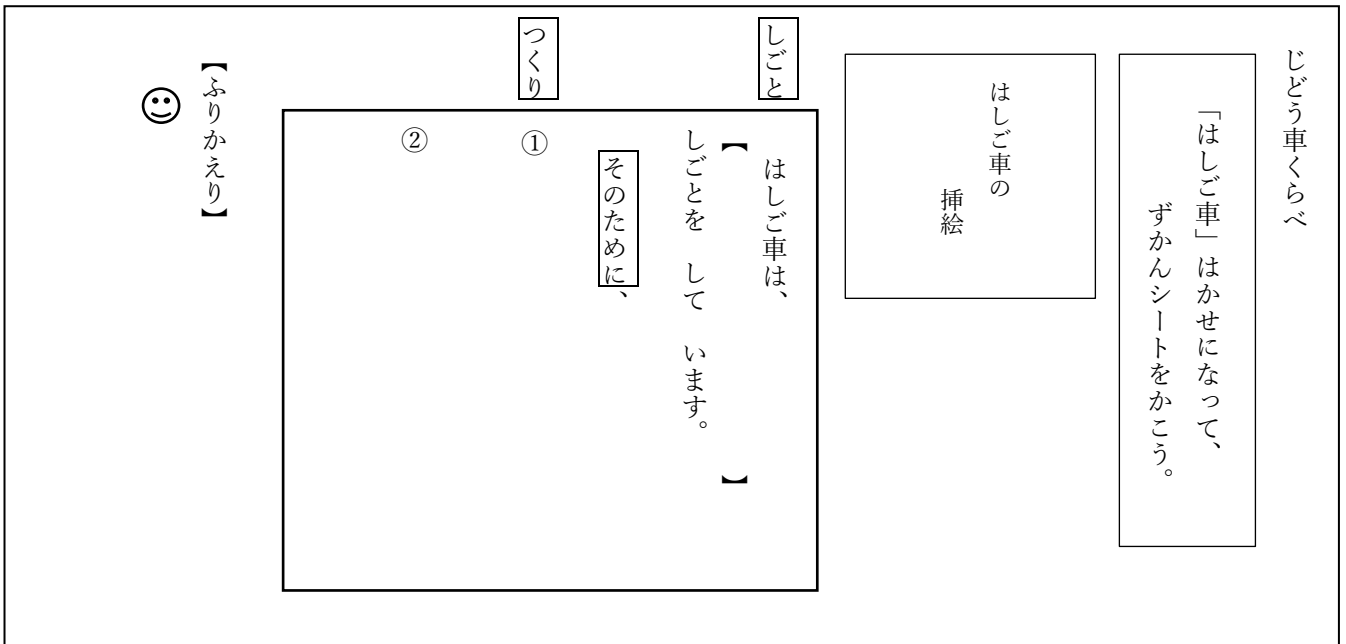
(2) 展開

	○学習活動 C: 想定される児童の反応	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (5分)	○前時を振り返り、本時のめあてを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しをもって学習できるように、これまでの学習や本時の活動、ゴールイメージを尋ね、児童が答えられるようにする。 ・前時の振り返りでよかったものを紹介する。
「はしご車」はかせになって ずかんシートをかいて つたえよう		
展開 (35分)	<p>○教科書の挿絵と模型を使って、ペアではしご車について気付いたことを出し合う。 (ペアを変えて、数回取り組む。)</p> <p>C: はしごが伸びると、高い所まで行けるね。 C: 人が乗ると、重いものを吊り上げたときと同じように、丈夫な腕や足が必要だね。 C: はしごと腕は似ているね。 C: 挿絵を見ると、クレーン車のように足がついているね。 C: 足が重いと、傾かないね。 C: 車体の上に文字が書いてあるのはなぜだろう。</p> <p>○図鑑シートに、仕事と作りを整理する。</p> <p>○書いた図鑑シートを見ながら、「はしご車」について、ペアで仕事と作りを確認する。 (ペアを変えて、数回取り組む。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験から考えさせるために、自動車図鑑などの本やインターネットの情報に頼らず、あくまでも自分の経験や知識で書くように伝える。 ・安心して対話ができるように、頷いたり相槌を打ったりすることの大切さを確認する。 ・「はしご車」のことが理解しやすいように、車の模型を実際に触らせて、対話させる。 ・共通したイメージで対話させるために、挿絵に立ち戻るよう声を掛ける。 ・なぜその作りになっているのか、仕事と関連で考えさせる。 ・机間指導をした際に、対話が活発でないペアには、様子を見て、前時までに学習してきた自動車と比べてみると良いことなど声を掛ける。 ・支援の必要な児童には、仕事の部分が既に書かれている図鑑シートを渡す。 ・友達の発表を聞いて、付け加えなくなった児童には、赤鉛筆で付け加えても良いと声を掛ける。 <p>◆「はしご車」について対話したり模型で確認したりして、仕事や作りを伝えようとしている。【態】 ☆発言・記述</p>
まとめ (5分)	<p>○学習の振り返りをする。</p> <p>○次単元の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・顔マークで全員が振り返りをした後に、振り返りを言語化できるようにするために児童数名に発表させる。 ・次單元への意欲につなげるために、自動車博士になったことを価値付ける。 ・次單元が最終ゴールとなり、自分が友達に伝えたい自動車について図鑑シートにまとめ、自動車図鑑を完成させることを確認する。

(3) 具体的な児童の姿と、目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要すると判断した児童 (C) への具体的な手だて
<p>これまでの学習を生かし、「はしご車」について対話したり模型で確認したりして、仕事と作りを関連付けて捉えて、伝えようとしている。</p>	<p>「はしご車」について対話したり模型で確認したりして、仕事や作りを伝えようとしている。</p>	<p>児童には、模型を活用させ、「はしご車」の「しごと」と「つくり」を捉えられるようにする。</p> <p>対話が活発ではないときの机間指導中の言葉掛けを想定し、内容の理解を促す。</p>

(4) 板書計画



(5) 机間指導

活発な対話となるために、以下のような言葉掛けをしていく。

- ・「はしご車」の仕事は、何だろう？
- ・「そのために」どんな作りになっていますか？
- ・はしごの上に乗っている人はだれですか？何をするために乗っていますか？
- ・はしごは模型でいうと、どこかな。挿絵でいうとどこかな。
- ・なぜはしごが必要なの？
- ・「クレーン車」と似ているね。思い出して、比べてみよう。
- ・足はあるかな。模型でいうと、どこかな。挿絵でいうとどこかな。
- ・「クレーン車」では、重いものを吊り上げるから、しっかりした足が必要だったね。「はしご車」は、どうなっているかな？

じどう車はかせになって じどう車ずかんをつくろう

～もったつたえたい じどう車はどれだ～

1ねん1くみ

【「じどう車くらべ」 ふりかえりシート】

日づけ	がくしゅうのめあて	
①11/13	ゴールのイメージをもとう	
②11/15	「 . 」はかせになって ずかんシートを かこう	
③11/19	「 」はかせになって ずかんシートを かこう	
④11/21	「 」はかせになって ずかんシートを かこう	
⑤11/22	「 」はかせになって ずかんシートを かいて つたえよう	
⑥11/25 ～11/29	じどう車ずかんをつくろう	

Handwriting practice box for the character 'ス' (su). It contains four horizontal dashed lines for tracing within a rectangular frame.

ス

A rectangular box for writing practice, currently empty.

Handwriting practice box for the character 'ス' (su). It contains two horizontal dashed lines for tracing within a rectangular frame.

ス

A rectangular box for writing practice, currently empty.

① ス

A large rectangular box containing four vertical dashed lines, intended for handwriting practice.

SAU

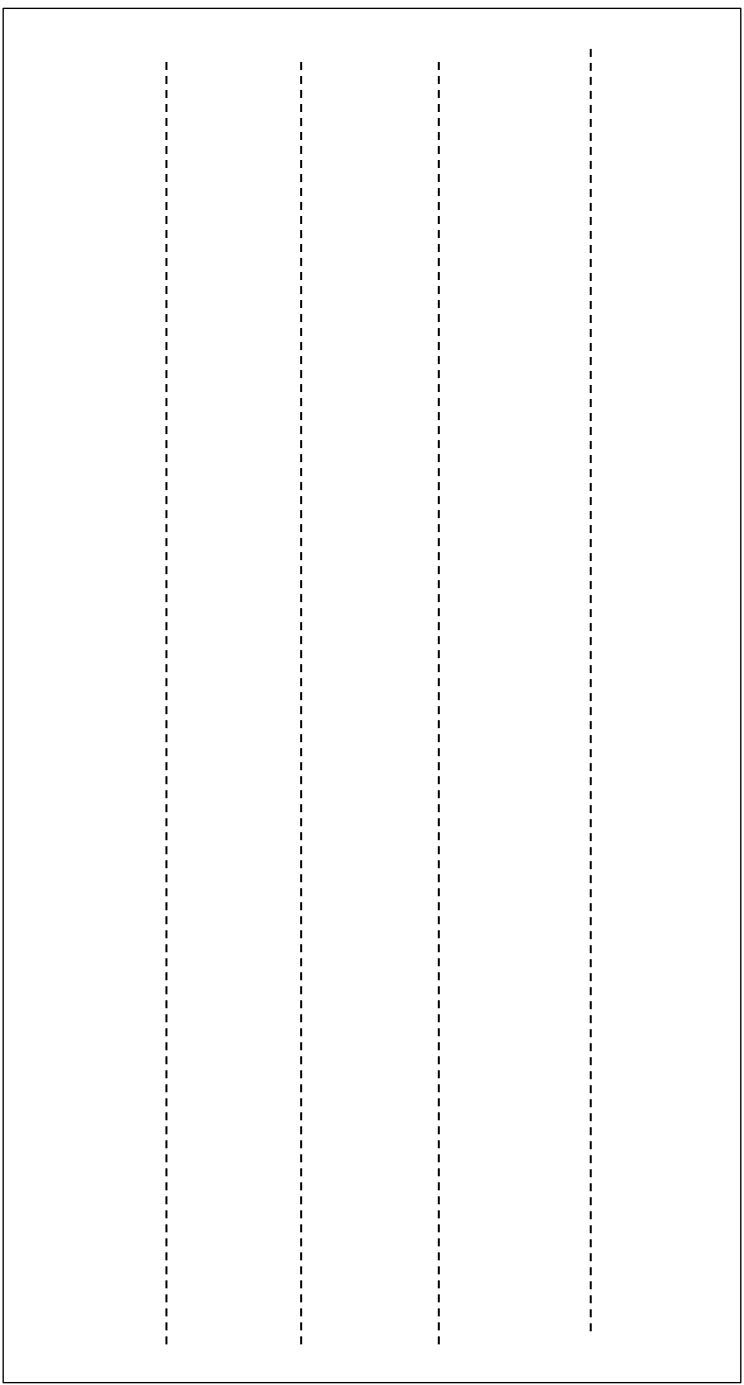
A small empty rectangular box, likely for a name or identifier.

A large rectangular box containing two vertical dashed lines, intended for handwriting practice.

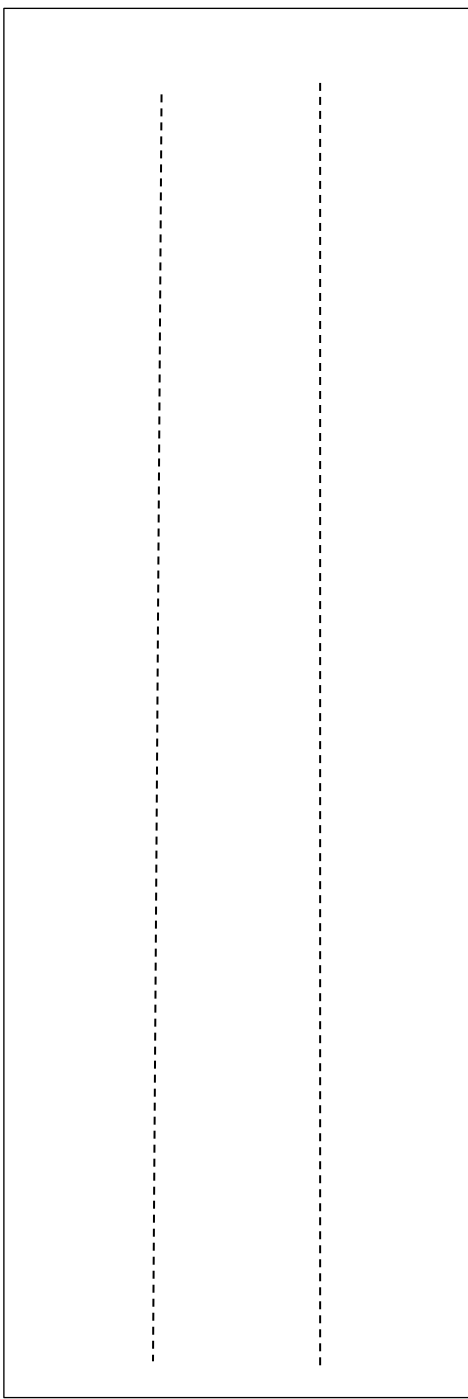
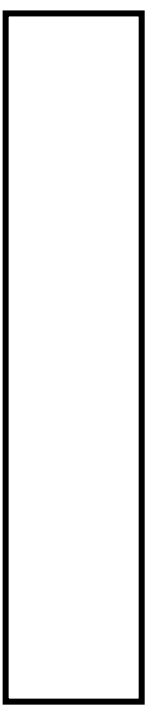
SAU

A small empty rectangular box, likely for a name or identifier.

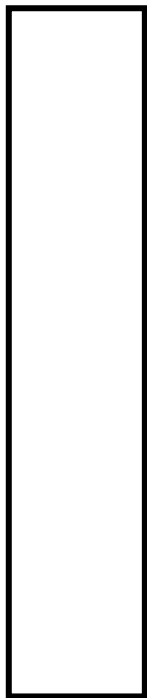
② SAU



UVA



UVU



③クーン毎

④ せうい冊

せい

せう

すう

せい